

日本共産党松江市委員会機関紙

# 新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

## 統一協会 島根原発 コロナ対策 物価高騰から暮らしまでもれ 議員団がまちかどから訴え



いっせいで宣伝する県議団、市議団ら

日本共産党尾村利成島根県議は松江市議団と共に9日、松江市で議会報告会を開き、約90人が参加しました。尾村県議は、現行の島根原発の避難計画は「入院患者は山陽3県へ転院予定、コロナ感染拡大などでベッドが不足

すれば四国、関西の病院へ行くこととなる。なぜ病気で苦しむ人が避難させられるのか。危険な原発は動かすべきではない」と強調しました。会場から5氏が発言、統一協会の霊感商法被害に遭った女性は「岸田首相は解散命令に後ろ向き。共産党に迫及してほしい」と訴えました。松江生協病院の眞木高之副院長（医師）は、国の医療費削減路線で苦しむ患者の実態を語り、「県政は国の悪政の防波堤の役割を果して」と話しました。市民団体「まつえワニの会」の遠藤修一代表は「市民と行政の協力が重要。引き続き力を貸してほしい」と訴え、小草一政副代表は「尾村県議の質問は迫力満点だった」

と語りました。たちばなふみ市議は、市議となつて1年半の取組、就学援助制度の充実、制服や校則、学校トイレの問題、ジェンダー平等を攻撃する旧統一協会と行政の関わり、島根原発について等を報告しました。舟木けんじ市議は教員不足問題で現場の実態を議会でも度々訴えてきたこと、不登校問題での行政の対応などを報告しました。

### 中国地方でいっせいで宣伝

21日、日本共産党の尾村利成、大国陽介両県議、舟木けんじ、たちばなふみ両松江市議らがまちかど宣伝しました。尾村県議は、岸田政権による国葬強行や自民党と統一協会

の癒着、物価高騰に対する無為無策を批判。細田博之衆院議長（衆院島根1区）と統一協会の根深い関係にふれ、「徹底究明に向け引き続き全力を挙げます」と訴えました。

### 憲法を生かし、暮らしと命を守る政治を

**日本共産党演説会**

12/18(日)  
10:00~

松江テルサホール  
わたしもお話します

いのちまもる 政治を今こそ

日本共産党 参議院議員/党書記局長  
井土 小池あきら  
日本共産党 県議会議員  
尾村としなり

と訴えました。たちばな市議は「上定市長は島根原発2号機再稼働に同意した。市民の生命・財産を守るため原発推進の決算に反対」と9月議会について報告。また給食費負担軽減の全国の取組、松江市の対応を紹介、もっと子育て支援をと訴えました。

## 日本共産党 100周年



### 党の歴史に励まされ67年 自然を守る住民運動と共に 元東出雲町議 一瀬徳信

党創立100周年の記念講演を3時間かけてじっくり読んだ。読んでゆくうちに、戦前からの党員の不屈の闘いが脳裏に蘇って来た。勿論自分の入党前の党の姿は文書や学習会で知っただけであるが、小林多喜二の「党生活者」などの小説や文献などで語られた非合法下での党活動の厳しさを思

い、不思議なくらい自分が党員であることに誇りを感じた。私は19歳で入党した。その年の9月に東出雲町が合併して最初の町議選があり、長谷川仁さんが立候補した。ガラス張りの町政をめざし「佐藤町政を町民の手に」をスローガンに、不正を暴く機関誌「まちの灯」を1部5円で売り歩いた。多くの町民から期待され、綴っ

て保存している人もあった。選挙結果は一位当選でマスコミを驚かせた。長谷川さんの後任として、浅野ひで子さんと私が町議に当選したのは昭和41年、30歳の時であった。着たこともない背広にネクタイで一日中会議で座っていることはこの上もない苦痛であった。議員団会議で「報われたい、限らない、大きな大衆奉仕」を教えられた。

36年間の議員活動は、自然を守るための「ゴルフ場建設阻止」「危険な産業廃棄物場建設阻止」「宝満山公害対策」等の住民運動と、それを伝える「まちの灯」の共同活動だったと思っ

ている。「中海干拓淡水化事業」を中止させた運動は、島根県政上は勿論、国政上も特筆すべき運動であった。

昭和38年4月に共産党島根県委員会には中海干拓事業反対の意見書を発表、「民主島根」やパンフレットなどで宣伝を開始した。昭和46年初めて共産党が県議会で議席を得、長谷川仁県議が誕生、干拓問題は県議会の重要課題となった。日本科学者会議の保母武彦島大教授を中心とした専門学者と住民団体、漁業組合、共産党の国・地方議員団が共同でたたかった。県会では長谷川、国会では中林よし子衆院議員が取り上げ、「国営パイロット事業」で初めて中止に追い込んだ。「宍道湖のシジミ」はこの運動で残されたと言っても過言ではないと思う。

